

KVK 浄水器接続専用水栓 K1620G(N) 〈各仕様共通〉 施工説明書

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。
■この施工説明書はK1620G仕様のイラストで説明しています。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

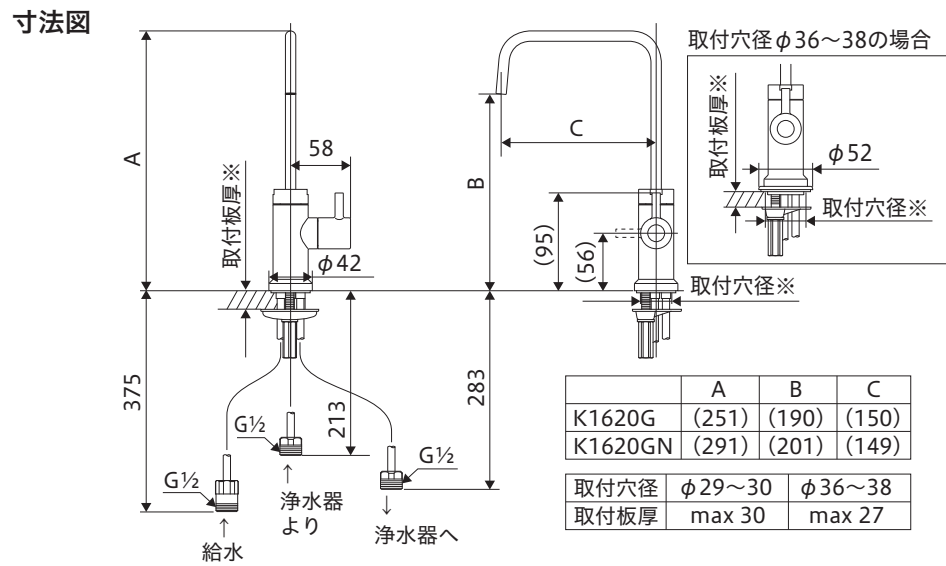
この絵表示は、してはならない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

<p>警告</p> <p>加工および接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。</p> <p> 器具が破損し、けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解水のため解水機をご使用の場合、水栓（給水管含む）には絶対に通電しないでください。</p> <p> 通電すると水栓や給水管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p> 器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>注意</p> <p>めっき部品は、ぶつたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。</p> <p> めっきの表面が割れて、けがをすおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。</p>	<p>配管接続部をテーパねじに接続しないでください。</p> <p> テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたりして、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>止水栓取り付け箇所や給水管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。</p> <p> 点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>

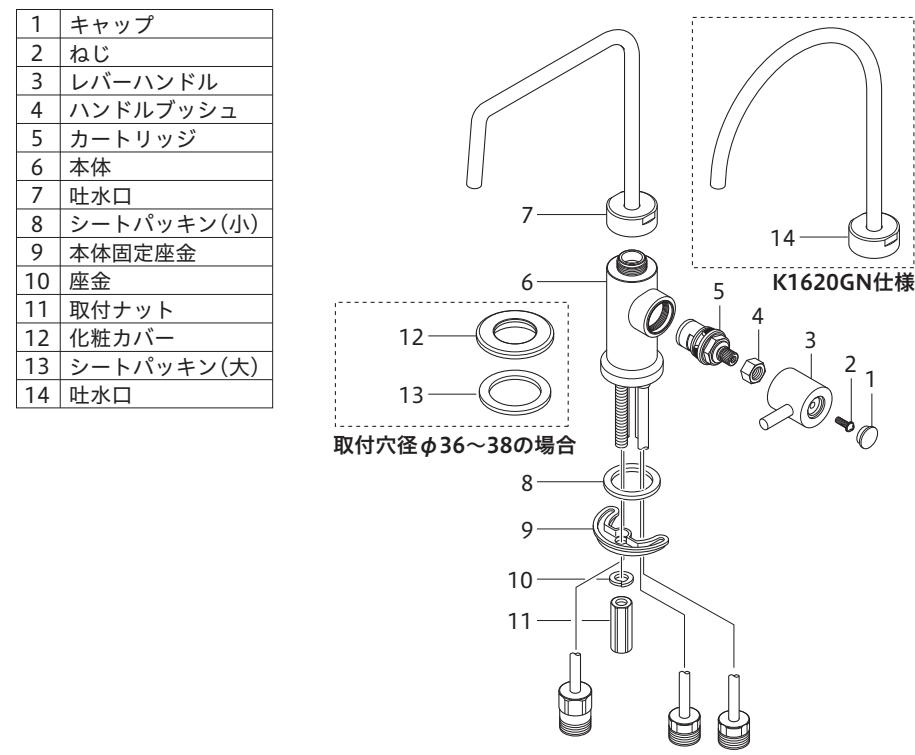
取り付け前に

- ① 使用水圧（給水圧力）最高水圧：0.75MPa（静水圧）
- ② 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ③ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ④ 本製品の通水温度は、35℃以下です。
- ⑤ 本製品は改造（加工および接合、市販浄水器具の取り付け等）によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑥ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

寸法図 / 分解図



分解図 この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。



取り付け手順

- 1 給水管内の清掃**
配管工事後、必ず給水管内を清掃してください。
- 2 止水栓(別売)の取り付け**
止水栓はストレーナ付が最適です。
 ストレーナ付止水栓(別売) 止水栓(別売)
- 3 本体の取り付け**
 - A. 取付穴径がφ29~30の場合**
 - ① 本体から取付ナット・ばね座金・本体固定座金・シートパッキン(大)・化粧カバーをはずします。
※シートパッキン(小)ははずさない。
 - ② 取り付け穴周囲の汚れを取り除いたあと、取り付け穴に本体を差し込みます。
 - ③ 止めねじに本体固定座金・ばね座金を通し、取付ナットを締め付けて本体を固定します。
 - B. 取付穴径がφ36~38の場合**
 - ① 本体から取付ナット・ばね座金・本体固定座金をはずします。
※シートパッキン(大・小)、化粧カバーははずさない。
 - ② 取り付け穴周囲の汚れを取り除いたあと、取り付け穴に本体を差し込みます。
 - ③ 止めねじに本体固定座金・ばね座金を通し、取付ナットを締め付けて本体を固定します。

【△注意】取付ナットの締め付けは、専用工具G30(別売)で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。取付ナットを締め付ける際は、レバーハンドルを持って締め付けしないでください。器具が破損し、漏水のおそれがあります。

- 4 銅パイプの配管**
図のように垂直部分が長くなるように取り付けます。
【△注意】
・給水パイプは大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり水栓の根元で曲げたりしないでください。
図1のような無理な配管はしないでください。配管の抜けや亀裂や破損の原因となり、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
・給水配管は動かないように固定してください。銅パイプが抜け、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- 5 止水栓との接続**
給水側接続金具が共回りしないように、別スパナで固定しながら、別売のフレキシホース等に接続します。
【△注意】
・接続は適切な工具で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。
・薄肉の接続管に給水側接続金具を接続しないでください。漏水のおそれがあります。
・止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと、銅パイプが抜け漏水の原因になります。
- 6 浄水器との接続**
浄水器との接続は、浄水器側の説明書を参照してください。

取り付け後の点検と清掃

通水確認
【△注意】水栓を取り付け後、通水して水の出し止めを5~6回繰り返して、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

流量調節
レバーハンドルが全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。